

消費量では他を圧倒する 「ビール類」

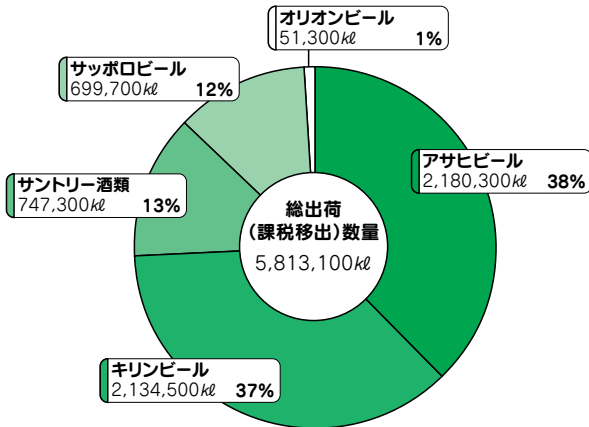
最も身近で手軽なお酒としてビール類の消費量は全酒類の約70%を占めています。アルコール度数が5%前後と低いのも背景にあります。日本のビール類の大きな特長は、3つのカテゴリーが存在することです。これは世界でも例がありません。

ビールの起源は紀元前4,000～3,000年頃の古代メソポタミアまで遡ります。この大麦原料の醸造酒は、日本では1870年頃に横浜で初めて製造されました。そして、第2次世界大戦後には、日本の急速な経済成長と食の変革に伴って国産ビールの消費量は急増、全酒類の70%を占めるまで成長しました。消費のピークは1994年の713万5,000kl。同年秋には価格の安い発泡酒が登場、2002年には発泡酒より廉価な新ジャンル（俗称・第3のビール）が登場しましたが、直近の国産ビール類3カテゴリー計の出荷は581万3,100klとピーク時の82%まで縮小しています。なかでも麦芽使用比率が67%を超えるビールは約291万7,800klと41%まで縮小、3カテゴリー内の構成比もほぼ50%となっています。消費減が続く背景には、以前に比べて多種多様なお酒が手軽に飲まれるようになったこともあります。一方、同じ風味のアルコール飲料のなかで3カテゴリー、新ジャンルも大麦使用の有無で2つに分かれるので、厳密には4カテゴリーが存在するのは世界でも例がありません。これはビールの酒税が諸外国と比べて突出して高率であることに起因していますが、長引く不況や低価格を武器とする組織小売業の力が強くなっていることで、消費は価格の安い方へのシフトが続いています。しかし、これは同じ容積・重量を運んでもマージンが率で計算されれば、中間流通業者の手取りが減ってしまうという問題も抱えています。なお、国産ビール類の大手メーカーは5社、うち上位4社の寡占となっています。

（参考 URL：ビール酒造組合 <http://www.brewers.or.jp/>

発泡酒の税制を考える会 <http://www.happoshu.com/index.html>）

直近の国産ビール類3カテゴリー計出荷量



注) 1. 年度は1～12月
2. 各社の輸入引取分が含まれる

シェアから見る売場の中身（社名・商品）

アサヒビール

スーパードライ	ビール
クリアアサヒ	新ジャンル
スタイルフリー	発泡酒
アサヒオフ	新ジャンル
一番麦	新ジャンル
ブルーラベル	新ジャンル
ザ・マスター	ビール
熟撰	ビール
本生	発泡酒
ストロングオフ	新ジャンル

サントリー酒類

金麦	新ジャンル
ザ・プレミアムモルツ	ビール
ジョッキ	新ジャンル
モルツ	ビール
MDゴールデンドライ	新ジャンル

サッポロビール

黒ラベル	ビール
麦とホップ	新ジャンル
エビス	ビール
ドラフトワン	新ジャンル
金のオフ	新ジャンル

キリンビール

のどごし(生)	新ジャンル
一番搾り	ビール
麒麟淡麗(生)	発泡酒
淡麗グリーンラベル	発泡酒
キリンラガー	ビール
淡麗ダブル	発泡酒
ハートランドビール	ビール
ブラウマイスター	ビール
濃い味	新ジャンル
麦のごちそう	新ジャンル

オリオンビール

オリオンドラフト	ビール
サザンスター	新ジャンル



① 酒の礼儀習得の極意

まあ、こういった仕事をしている関係で酒との絆はかなり強い。知らないと取材もできないので、いろんな酒を飲むし、いろんな店にも行く。そういった中で、気をつけていることは、「心底酒を楽しむために礼儀を大切にする」ことだ。偉そうに聞こえるかもしれないが、これは多くの失敗を繰り返してきた自分への戒めでもある。

酒は致酔飲料だけに、楽しさと裏腹に怖さをもっている。普段はもの静かな男が突如、色魔に変身したり、大声で騒いだり、威張りだしたり、暴れたり、泣いたり…。タバコがここまで世の中から嫌われるようになったのは、健康面からだけではあるまい。ポイ捨て、歩きタバコ、食事時の合席でもおかまいなしなど、喫煙者の礼儀の無さも大いに関わっていると思う。酒も礼儀知らずが増えれば増えるだけ、嫌煙権ならぬ嫌酒権の動きが広がるだろう。礼儀知らずとは、大人になっていないということ。礼儀とは多くの社会人がお互いを認め合いながら円滑に暮らすための最低条件だ。礼儀を知らぬ者が酒を飲めば、みかけは大人でも法律で禁じられている未成年飲酒と同じことだ。

昔ながらの居酒屋や、オーセンチックなバーなど、真の酒好きが集まる場所に独りで行くと、自然と礼儀を覚える。亡父は「たまにゃ独りで大勢の中に飲みに行け。いろんなことが分かる」と教えてくれた。合席になると後から来た客が先に会釈をする。先に座っていた客も会釈を返す。タバコを吸うときも一言声をかけ、もし断られたら我慢する。先に帰る時も会釈をする。そのうちに打ち解けて話が弾んだりもする。独りで行くから価値がある。大勢の中での独りは弱いし、それだけ周囲を観察するし、気を配るからだ。

適正飲酒とは、もちろん健康への配慮もあるが、礼儀を踏まえた飲酒という意味合いもある。酒は大人の飲み物だ。小遣いには限度があるが、たまにはこういった大人の酒を独り飲みされたらいかがでしょうか。えっ、毎晩やってるって？。これはこれは、大変失礼しました。きっと何処かでお会いしているかもしれませんね。